

# 三原村観光振興基本計画

学籍番号：1100452 氏名：吉岡 佑己

高知工科大学工学部社会システム工学科

高知県幡多郡三原村は四万十市・宿毛市・土佐清水市に四方を囲まれた四国足摺半島の付け根に位置し、13の集落により構成される村である。また、総面積の86%が産地であり、主要産物に水稻、茶、ハウスイチゴ、和牛、養豚、土佐硯、みはら桜、三原米を原料とした濁酒がある。しかし、三原村は、高齢化、過疎化が進んでいる。そして、教養、文化、体育、公園、宿泊等の施設が少ないという問題がある。そのため、三原村農業構造改善センター再整備計画や宿泊棟、キャンプ場整備計画等、交流による活性化を図る三原村観光振興基本計画の策定を行った。

**Key Words : 高知県幡多郡三原村、観光振興、交流、施設整備、地産地消、計画策定**

## 1. はじめに

### 1.1 計画の背景

高知県幡多郡三原村は、人口が昭和 20 年代の 3,750 人をピークに減少が続き、労働人口の高齢化がすすんでいる。また、村外の人々が村に訪れた際に楽しめる教養、文化、体育、公園、宿泊等の施設が少なく、村民が、休日を楽しむための施設も少ない。

しかし、三原村は、総面積の 86%が産地であり、主要産物に水稻、茶、ハウスイチゴ、和牛、養豚、土佐硯、みはら桜がある。さらに、三原米を原料とした濁酒生産が、特区による許可を得て地域振興に貢献している。そして、老人の昔から伝わる知恵があり、活性化、村づくりに対してやる気のない人はいない。このように、人口の減少や高齢化、施設が整っていないなどの問題はあるが、三原村には、自然があり、良い食材があり、土地があり、やる気があり、村を想う人がいる。

三原村の地域資源を見直し、それらの地域資源を活かし、村外の人々に三原村について知ってもらい、それをきっかけに三原村に足を運んでもらう。そして、『食・泊・遊・学』といった宿泊施設の利用や自然とふれあう観光、土佐硯などの伝統文化を学んでもらい、人々の交流により三原村を元気にするといったことが重要となる。

### 1.2 計画の目的

そこで本計画は、三原村観光振興基本計画を策定することを目的とする。

### 1.3 計画の構成

本計画の構成は以下に示すとおりである。

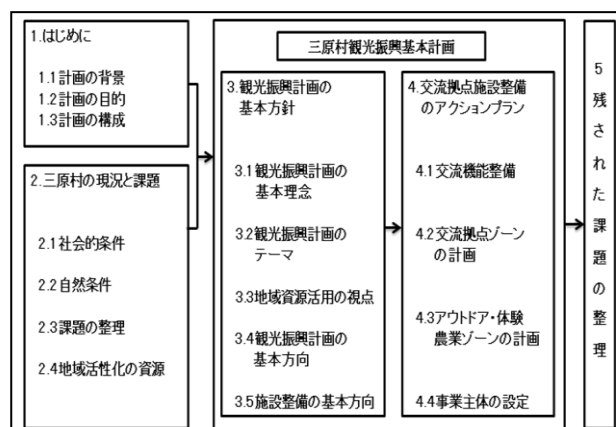


図1 計画の構成

## 2. 三原村の現況と課題

### 2.1 社会的条件

#### 1) 位置

三原村の位置は図2のとおりである。

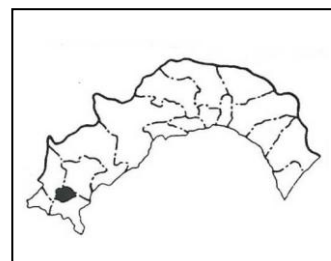


図2 位置図

#### 2) 人口

平成17年の国勢調査によると、三原村の人口は1,800人で、昭和50年当時の2,300人に比べると21.7%減の著しい人口減となっている。

年齢別にみると、高齢者が49.1%を占めている。

表1 年次別人口

年次	総人口	男	女	世帯数
昭和 50年	2,300	1099(47.8)	1201(52.2)	699
55年	2,195	1068(48.7)	1127(51.3)	749
60年	2,156	1045(48.5)	1111(51.5)	751
平成 2年	2,005	953(47.5)	1052(52.5)	749
7年	1,986	963(48.5)	1023(51.5)	779
12年	1,871	904(48.3)	967(51.7)	812
17年	1,808	855(47.3)	953(52.7)	735

表2 年齢別人口

集落名	0～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
下切	12	3	6	9	9	6	18	15
亀ノ川	3	0	5	7	5	17	17	15
広野	6	5	3	2	5	13	8	6
柚ノ木	52	15	32	39	43	49	63	37
宮ノ川	36	23	29	31	53	49	63	52
来栖野	12	10	10	10	19	20	22	13
皆尾	23	8	6	12	21	16	19	26
芳井	5	5	2	4	8	3	3	9
下長谷	33	14	18	26	21	37	43	25
上下長谷	6	7	12	5	18	25	6	17
上長谷	14	7	16	11	20	20	21	22
狼内	2	4	6	3	9	12	14	10
成山	6	0	4	4	4	7	7	4
計	210	101	149	163	235	274	304	251
構成比(%)	12.4	6.0	8.8	9.7	13.9	16.2	18.0	14.9

3) 産業構造

三原村における産業別就業者人口の推移は表3のとおりである。

表3 産業別就業者人口の推移

	平成 7年(%)	平成17年(%)	増減数(ポイント)
第一次産業	18.4	31.3	12.9
第二次産業	41.5	27.6	△ 13.9
第三次産業	40.1	41	0.9

(1) 農業

農業は三原村の基幹産業であるが、農家数は減少しており、平成7年と平成17年を比較すると、39.6%減となっている。

表4 専業兼業別農家数の推移

年度	専業兼業別総数	専業農家	第一種兼業	第二種兼業
平成 7年	313	54(17.3)	41(13.1)	218(69.6)
平成12年	233	47(20.2)	27(11.6)	159(68.2)
平成17年	189	54(28.6)	24(12.7)	111(58.7)

(2) 商業

三原村の商業を商業統計表でみると、小売業では飲食料店が最も多い(平成16年38.5%)。全事業所数は21.2%減、全従業員数は2.7%減であるが、年間販売額の総数は11.6%増となっている。

表5 商業の推移

項目	年次	総数	小 売					業
			各種商品	織物・被服・身の周り品	飲食料品	自動車・自転車	家具・建具・什器	
事業所数	平成11年	33	1	3	14	1	4	10
	平成16年	26	1	1	10	1	3	8
従業者数	平成11年	73	2	5	20	5	7	34
	平成16年	71	1	2	18	6	5	35
年間販売額	平成11年	362			164			131
	平成16年	404			116		6	102

4) 土地利用

三原村の土地の概要は表6のとおりである。

表6 土地の概要

地目	農用地		宅地	原野	山 林				その他 道路等	その他	計
	田	畑			小計	私有林	村有林	国有林			
面積	379	93	49	55	7,244	2,948	1,119	3,177	677	38	8,535
比率(%)	4.4	1.1	0.57	0.64	84.9	(40.7)	(15.4)	(43.9)	7.9	0.44	100

2.2 課題の整理

1) 時代動向等からみた三原村の課題

- ・ 少子高齢化・過疎化
- ・ 第二・第三次産業の就業者人口の減少

2) 地域振興等における三原村の課題

- ・ 食事や宿泊ができる観光的要素の高い核的施設がない
- ・ 交通アクセスが悪い
- ・ 情報発信力が弱い
- ・ 地域イメージが弱い
- ・ 体験型の観光機能の整備
- ・ 三原村で生産される食材用いた加工品の開発

3. 観光振興計画の基本方針

3.1 観光振興計画の基本理念

交流機能の強化を行い、人が訪ね、ふれあい、にぎわうことで、知名度がアップすれば、外から地域にはね返ってくる広報効果によって地域住民の地域再認識を促し、住民の連帯感や地域のアイデンティティを確立する。また、その結果として、三原村で深刻な問題となっている。少子化、村外への人口流出による過疎化に歯止めをかけ、昼間人口が増加し、経済効果やその後の定住を発生させることで、住民の意識を高揚させ三原村全体が元気になることをめざす。

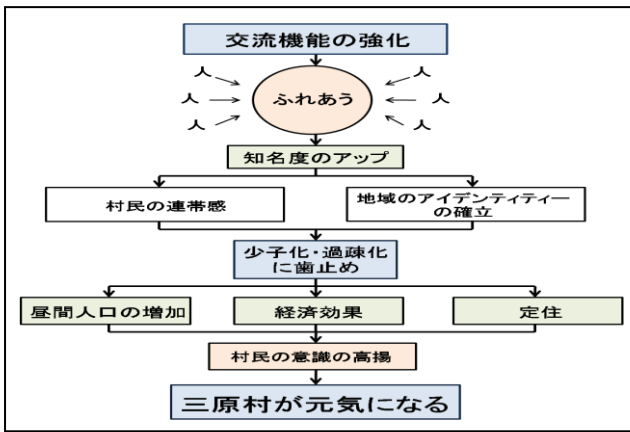


図3 観光振興計画の基本理念

### 3.2 観光振興計画のテーマ

三原村の周辺市町は観光整備が充実している。しかし、三原村には、観光地化していないという強みがあるため、周辺地域との差別化を図る。また、三原村には、日本の田舎の原風景があるため、来村者にタイムスリップ感覚を楽しんでもらう。そのため、交流のキーワードは「おばあちゃんちのふるさと」「おかえりと迎える三原村」とし、『幡多のなかでキラリと光る三原村』をテーマに掲げる。

#### 幡多のなかでキラリと光る 三原村

### 3.3 活用する地域の資源

活性化に必要となる資源は表7のとおりである。

表7 地域活性化の資源

食	三原米、ゆず、ブロッコリー、どぶろく、味噌、豆腐等
施設	三原村農業構造改善センター、農家民宿、キャンプ場等
自然	山(今ノ山)、川、植物、(牧野富太郎)
歴史・文化	遍路道、農村の暮らし、土佐硯、まき風呂等

### 3.4 地域資源活用の方向

- ① 村外の人々が魅力的に感じるものに磨き上げる
- ② 村内で楽しませる連携をつくる

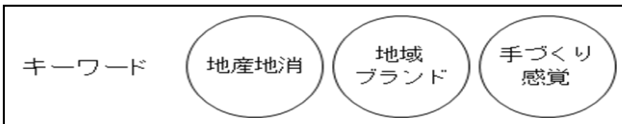


図4 地域資源活用のキーワード

## 4. 交流拠点施設整備のアクションプラン

### 4.1 交流機能整備のためのゾーン設定

交流機能として、交流拠点ゾーン、アウトドア・体験農業ゾーンを計画した。

交流拠点ゾーンは、三原村農業構造改善センターを中心とし、アウトドア・体験農業ゾーンは、三原キャンプ場の土地に配置した。

#### 1) 交流拠点ゾーンの機能

① 宿泊機能、② 交流案内機能、③ 野外交流機能を持つ。

#### 2) アウトドア・体験農業ゾーンの機能

① 宿泊機能、② 自然体験機能、③ 交流機能を持つ。

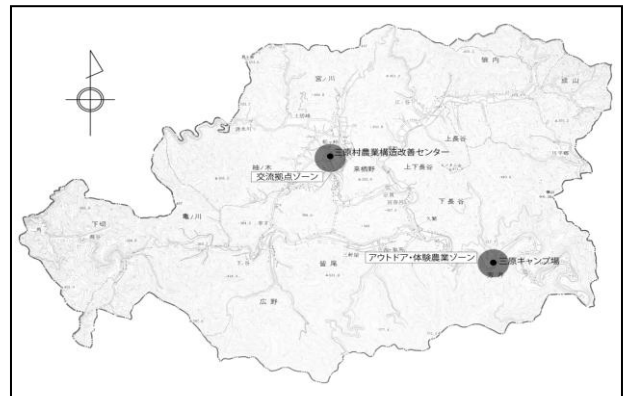


図5 ゾーン配置図

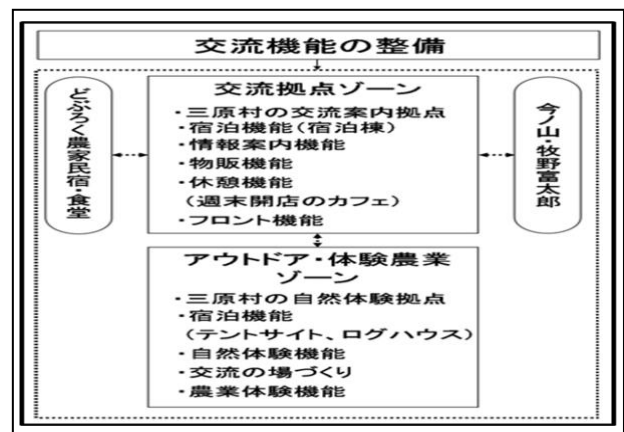


図6 交流機能整備計画図

### 4.2 交流拠点ゾーンの計画

交流拠点ゾーンは、三原村の交流案内拠点として、以下のような機能を計画する。

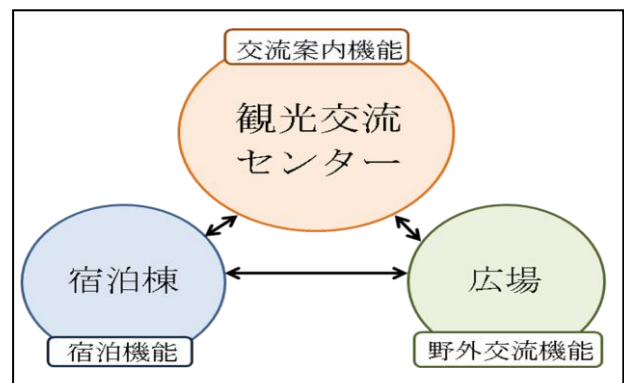


図7 交流拠点ゾーンの機能計画図

#### 1) 観光交流センター整備計画

三原村農業構造改善センターをコンバージョンする。

- ① 情報案内機能の配置

- ・施設利用者の申込受付、来村者への地域案内
- ② 物販機能の配置（加工品等）
  - ・宿泊施設利用者への地域の「食」の提供
  - ・来村者への土産品等の販売
- ③ 休憩機能の配置 ⇒ 週末開店のカフェ
  - ・地域住民の当番制等による運営システム

## 2) 宿泊棟整備計画

キーワード：「懐かしさ」「ほっとする」「時間がゆっくり」

- ・快適でプライベートな空間
- ・レトロな古民家風の建物
- ・週末行きたくなる三原村に整備

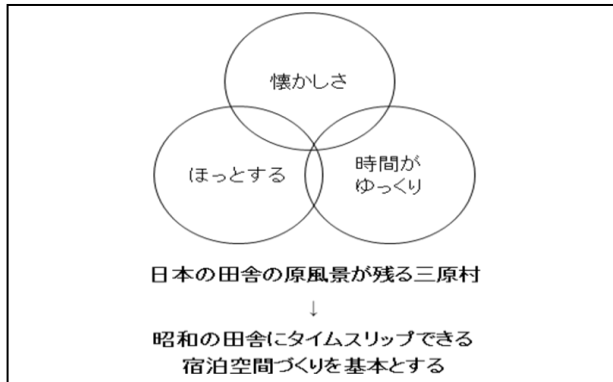


図8 宿泊棟整備のキーワード

## 4.3 アウトドア・体験農業ゾーンの計画

アウトドア・体験農業ゾーンは、三原村の自然体験拠点として、以下のような機能を計画する。

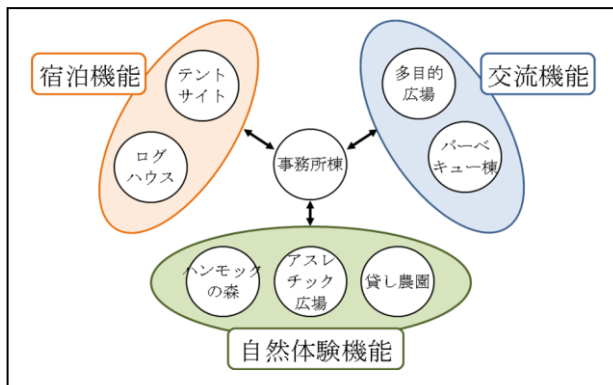


図9 アウトドア・体験農業ゾーンの機能計画図

### 1) キャンプ場整備計画

- ① 宿泊（テント、ログハウス）機能の配置
  - ・家族客用、グループ客用、オートキャンプ用
  - ・ログハウス
- ② 事務所機能の配置
  - ・利用者の受付
- ③ 駐車場の配置

### 2) 自然体験機能整備計画

- ① 自然体験機能の整備
  - ・自然の中でのハンモック、アスレチック
- ② 農業体験機能の配置（通年利用の促進）

- ・貸し農園

### 3) 交流機能整備計画

- ① 交流の場づくり（イベント活用等）
  - ・多目的広場
  - ・バーベキュー棟

## 4.4 事業主体の設定

事業主体は、表8のとおりである。

表8 事業内容と事業主体

宿泊棟受付・案内	三原村村民で組織する有限会社
物販・週末カフェ	三原村村民で組織する有限会社
キャンプ場事務所	三原村村民で組織する有限会社
貸し農業	JA高知はた

## 5. 残された課題の整理

### 5.1 三原村産農作物を使用した加工品の開発

三原村でつくられた味噌をさらに加工し、スティックタイプ包装のインスタント味噌汁の開発等、三原村産の食材を原料とした加工食品の開発を進め、さらなる交流資源を増やしていく必要がある。

### 5.2 情報発信拠点の進展

本計画のように、三原村に核的施設を整備するという考え方の他に、情報が効果的に発信できる地域への一時的な立地を行うことも三原村を有名にする一つの手段である。したがって、飲食店機能を核とした複合型アンテナショップを出展することにより、話題性をさらに高めるとともに、三原村のイメージを伝えることができる。

### 5.3 交通網の整備

交通網の改善という課題がある。しかし、これは、財政面の問題が非常に大きい、改善されれば、交流事業がスムーズになると思われる。

## 〈参考文献〉

- ・三原村役場、2008年、三原村勢要覧
- ・高知県地域雇用開発協議会、1999年、ごほく村からどんどんどこ
- ・三原村商工会、1997年、三原村むらおこし事業調査報告書
- ・三原村商工会、1996年、三原村特産品開発事業調査報告書
- ・三原村商工会、1995年、三原村地域活性化対策事業調査報告書
- ・三原村商工会、1994年、三原村地域資源調査報告書
- ・三原村役場、2009年、三原村役場統計データ、三原村役場